



令和7年度 コミュニティ・スクール（CS）活動報告

7/9（水）に第2回学校運営協議会を行いました。

今回は、主に以下の3点について熟議いたしました。

- ①学校評価アンケートの質問項目について
- ②休日部活動の地域移行（地域展開）について
- ③「総合的な学習の時間」の充実に向けて

それぞれについて、以下のような意見が出されました。

①学校評価アンケートの質問項目について

第1回学校運営協議会の熟議を受けて、学校評価の項目が以下のように変更されました。

（旧）1わたしは、夢や目標に向かって学習に取り組んでいる。



2わたしは、計画的に学習を進めている。

3わたしは、授業に集中して取り組んでいる。

（新）1わたしは、夢や目標に向かって計画的に学習を進めている。

2わたしは、夢や目標に向かって授業に集中して取り組んでいる。

- ・項目が3つから2つになり、分かり易くなっている。
- ・分かり易くなっている。

②休日部活動の地域移行（地域展開）について

現在のところ、令和8年度の9月から休日の部活動を地域に移行（展開）していく予定であることが説明されました。

- ・休日の部活動をどのように地域展開していくのか、具体的な施策が教育委員会から出ていないように思われる。簡単に移行できない地域の場合どうすればよいのか見えてこない。保護者や地域が何とかするということなのか、企業はどのように関わってくるのか、指導者の確保、費用や報酬といった部分はどのようにするのか等、分からないことが多い。

→会費の徴収や金額、指導者の確保、運営方法、会場の使用について等、未定のことが多い。（学校より）

- ・PTAで部活動の地域展開を話題として取り上げたことはない。どう進んでいくのか分からないままである。やってみないと分からないのかもしれないが、この現状で果たして「やってみる」ということができるのか、という疑問がある。



- ・現在、器械体操やバスケットボール等の地域クラブがあるが、取り組みたい部活動が今後地域にできるかどうかとも問題である。
- ・休日の部活動を地域展開した場合、主体は地域にあるのか、学校にあるのかが分からない。部活動の目標は、学校だと「協調性を育む」という面もあると思うが、地域だと「スキルの進歩」に置かれるという印象がある。平日の部活動は学校主体で教育的な目標を立てていくと思うので、地域との目標の違いが生まれるという危惧もある。



高橋会長の挨拶



金子校長の挨拶

- ・高校でも真剣に運動部活を取り組みたいと考えている生徒が、中学校でスムーズに活動できるような流れがあるとよい。
- ・運動のスキルが高まっていけば、「強くなりたい」「勝ちたい」という気持ちになるのは自然なことで、それは地域でも学校でも同じであると思う。また、誰のための部活動で、誰のための地域展開なのかということを見失ってはいけないと思う。
- ・現在は、地域展開への過渡期にあり、生徒や教員への影響が大きい。生徒は、移行前のこの現状をどう考えているのか、また、どうしたいと考えているのか把握することは大切なことだと思う。また、少子化が進んでいく中で、部活動の種類がどう淘汰されていくのか、という問題も大きい。
- ・自分の子供を見ると、地域展開のことをあまり分かっていないように思われる。ただ、部活動は真剣に取り組んでいきたいと考えているようだ。



③「総合的な学習の時間」の充実に向けて

昨年度までの総合的な学習の時間の活動を見直して、グループでの活動目標から個々の目標を重視しての活動を進める方針であることが、担当教諭から説明されました。また、中学生と地域の方々との接点作りを目標とした地域学校協働活動を今後進めていきたいという意向が、教頭から説明されました。

※＜地域学校協働活動とは＞

①朝活動での地域の方のスピーチ ②三ヶ日地区ふれあい講座

先日、アドバイザーとして自分の仕事等の話をさせていただいた。生徒たちの求めている情報が不確かだったため、少々戸惑いもあった。学校もどのようなスタンスで進めていくのか模索しているのであろうと感じた。(委員)

私は働くことへの意識を変革してほしいというねらいで、話をさせてもらった。話を聞いての子供たちの感想を知らせていただければアドバイスする側もブラッシュアップできる。(委員)

総合的な学習の時間の、今までの成果と課題について知りたい。(委員)

私は、大学生の就活を支援する活動に取り組んでいるが、社会の中で働くことに関してネガティブなイメージを持っている学生が多いように思う。そういう負のイメージではなく、働くことにやりがいや楽しさを見い出せることを伝えていきたい。(委員)

今まで三ヶ日町の大人の方々の活動を見たり、アドバイスを受けたりする活動を通して、自分たちもこんなことができるんだという成就感を味わうことができたと思われる。ただ20人以上のグループでの活動であったため、個々の学びの質を問う指摘もあり、自分の生き方を考えていく上でも、個の視点を大切にして活動のめあてを立てることとした。(学校)

ふれあい講座の講師となる人材を探すのは可能だと思う。ただ、生徒の希望や需要を先に確認してから講師を探していくのが合理的と思われる。(委員)

活動例①のスピーチは毎回違う方を想定しているのか。また、時間が15分ということだが、短いように思う。自己紹介で終わってしまう。(委員)

地域の方々と共有する時間を持つというのはとてもよい。教育課程の中で年数回、企画できれば定着していく。中学生がマンパワーとなって地域貢献ができるようになるのが望ましい。例えば防災活動や災害があった時の救援活動の際にも期待できる。(委員)

